

## 2020年8月の星空

イベント参加や星見旅行ができなくても、木星や土星といった明るい惑星は自宅の近くでも見やすい。深夜には火星の印象的な赤っぽい色が、夜更かし(早起き)すれば明けの明星の輝きが目を引くだろう。この機会に双眼鏡や天体望遠鏡を購入して、自宅から惑星観察を始めてみてはいかがだろうか。

機材がなくても肉眼で楽しめるのが、12~13日を中心に活動が活発になるペルセウス座流星群だ。安全やマナーを守って空を広く見渡し、夏の大三角やさそり座を眺めながら流れ星を待ってみよう。

### 8月2日(日) 月と土星が接近

8月2日の夕方から3日の未明、月齢13の満前の月と土星が接近して見える。

月と土星の右には木星もあり、明るい3天体が集まっている光景が楽しめる。肉眼や双眼鏡で眺めたり、写真に収めたりしてみよう。3天体それぞれを天体望遠鏡で拡大して観察するのも楽しみだ。衝を過ぎて間もない木星の縞模様や土星の環をじっくりと眺めてみたい。次回の接近は8月29日。



### 8月9日(日) 月と火星が接近



8月9日の深夜から10日の明け方、南東の空で月齢19の下弦前の月と火星が接近して見える。

地球との最接近を2か月後に控えた火星はマイナス1.3等級まで明るくなり、赤っぽい色もいっそう目立つようになっている。日付が変わるころには30度ほどの高さまで上っているの、夜更かしの人々の目を引く光景となるだろう。視直径は16秒角ほどまで大きくなっていて、天体望遠鏡での観察も楽しみだ。次回の接近は9月6日から7日。

### 8月12日(水) ペルセウス座流星群がピーク

8月12日、ペルセウス座流星群の活動が極大となる。極大時刻は深夜22時ごろと予測されており、12日の深夜から13日明け方にかけての時間帯が最も見ごろになると予想される。

下弦の月が夜空を照らすため条件はやや悪いが、ペルセウス座流星群の流れ星は明るいものの割合が多いので、月から離れた方向を中心に広く空を見渡せば、流れ星が見える可能性は高い。見晴らしが良く空気が澄んだところで1時間あたり30個前後は見られるだろう。明けの明星の金星やマイナス2等級の火星と流

れ星の共演も見えるかもしれない。

ペルセウス座流星群は、1月のしぶんぎ座流星群、12月のふたご座流星群と並ぶ三大流星群の一つだ。速度は速めで、流れ星の後に煙のような痕が見られることも少なくない。母天体はスィフト・タートル彗星。

### 8月16日(日) 細い月と金星が接近



8月16日の未明から明け方、東の空で月齢26の細い月と金星が接近して見える。

地球照を伴った幻想的な細い月と金星の共演は、数ある月と惑星の接近の中でも随一の美しさだ。肉眼や双眼鏡で眺めたり、周りに広がる冬の星座たちと一緒に写真に収めたりしてみよう。次回の共演は9月14日。

### 2020年8月25日(火) 伝統的七夕

旧暦の七月七日は「伝統的七夕(旧七夕)」と呼ばれ、毎年違う日付となる。2020年の伝統的七夕は8月25日で、やや遅めだ。

空が暗いところなら、月が沈んだあとには織女星(こと座のベガ)と牽牛星(わし座のアルタイル)の間に流れる天の川も見えよう。夏の大三角を見上げよう。

### 8月29日 月と土星が接近



8月29日の夕方から30日の未明、南から南西の空で月齢11の月と土星が接近して見える。

月と土星の右には木星もあり、明るい3天体が集まっている光景が楽しめる。ちょうど宵のころに南中するので非常に見やすい。肉眼や双眼鏡で接近の様子を眺めるだけでなく、天体望遠鏡で観察してみよう。次回の接近は9月25日。